



カラープロダクションプリントフラッグシップ機
[bizhub PRESS C8000]

オフィス、プロダクションプリント分野ともに
高採算のカラー機の販売が好調に推移し、
第2四半期の収益は大きく回復しました。

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社の2012年3月期第2四半期連結会計期間(2011年4月～9月)の連結業績の概要をご高覧いただくにあたり、ご挨拶申し上げます。

当期間は、情報機器事業において、第1四半期は東日本大震災に起因した販売機会ロスが発生しましたが、第2四半期には調達及び生産活動が通常の体制に概ね戻り、オフィス分野、プロダクションプリント分野ともに採算性の高いカラー機の販売が好調に推移しました。オプト事業では、薄膜・幅広タイプの液晶偏光板用TACフィルムが好調に推移し、HDD用ガラス基板も期中より受注状況が回復しましたが、光ディスク用ピックアップアップレンズなど光学関連製品の販売は低調に推移しました。ヘルスケア事業では、新製品を投入した医療用デジタル入力機器は前年を上回る販売台数となりましたが、フィルム製品は国内市場での需要減少により伸び悩みました。これらの結果に円高の影響も加わり、当期間における連結売上高は前年同期比3%減の3,783億円、営業利益は同31%減の156億円となりました。とりわけ第2四半期につきましては、情報機器並びにオプト事業における主力製品の好調な販売が牽引して、会社予想を上回る概ね前年並みの水準まで収益が回復しました。これによりまして、これまで未定としておりました中間配当金につきましては、1株あたり7円50銭をお支払いすることといたしました。

当社は2011年4月、「Growth(成長)」をキーワードに2012年3月期(2011年度)から2014年3月期(2013年度)までの3カ年を計画期間とする中期経営計画『Gプラン2013』をスタートさせました。初年度となる2012年3月期は、国内外の情勢が先行き不透明な状況ではありますが、将来にわたって持続した成長の実現に力点を置き、グループ一丸となって諸施策の取り組みを着実に進めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2011年11月

コニカミノルタホールディングス株式会社

代表執行役社長

松崎 正年